

第66号 2005年11月

発行所 ₹802-8651 北九州市小倉北区紺屋町13-1

(財)毎日新聞西部社会事業団

発行人 田上 猛 電話 093-551-6675 ファクス 093-541-8009

て絵会会

書団に

で工い画事福既芸るや業祉

0 開10贈々と聞

と少方スれに即力生たれり貯、、てかこはし描しな 、しのタだる売が方りて、めこ昨準らち「てい、ど 作で熱ッけ。展あの、寄丁てつ年備」ら画いてその

ん備、載ち、付も、台切せ色品こつに口る陶家きら月では休の合展けあ表紙なを紙のうては各福芸た始次に

`合画た

°に貼のるどちて

そなに頂にい描かた描す要中と品準用

っ献と贈寧頂このしとで材る頂れ画

いて身ましにいつうて既用はがくに材

E-mail s-maiswf@cotton.ocn.ne.jp 01770-2-40213

末画届

で9即歳



続々と届く絵画や焼物などの作品整理に追わ れる「チャリティー即売展」のスタッフたち

書住展チ 宗家のは 化教 `著全 家陶名国テ · な各 贈 漫工画地 画芸家に即 る 格り特贈方活 でチ別を々躍 リ計願 `る テらい作芸

0 売末色は立 は0展恒紙 ていれていれていれていれていれていれていれていれていれていれていた。 、さリ 12 れテエれ る1 るイ芸し 作1品い 3日(土) 10~1 「な添 群全どえ毎 で国が書日 、寄続き新

にうに生団そとの協先い入たきらりいる

書画等即売展チャリティー ら が献身的 届

業画頼明をそ作5つな資同べ事以たと事費へいの ス事は寄も材状けスれ家月て柱金時ン業上めい業なの人益 や業基贈本のとかタにのごいのをに卜団を準 格発そら「伴名ろる一支 `での費備企役の援やを 紙で的て化送れ作トう簿か °つえ福あ最やに画立社金福恵 しなに品し諸整ら今にる祉る大すも 。て会や祉ま `半こよ福助団れ `準理寄年も大事のの ど続の 水ヤはく 作く依盆備と贈もなき業とイ当年のう祉成体な

屋

パ山日 入13 〉 入 16 人 16 人 16 人 16 人 切福中 央17-11 区時福時下市10山綿1、時小 月3 · 岡半本中時 日 23 階天 倉 日開幕 会切毎北名 館市 日交神24会 ¹¹ 19 場 日九場 11流1日場 時半 1 (土) 10 階 3 西州 部市12 会小月 の1112113日月時 12 ラの10月 フリー(7) 16 (金) 25 (金) 2 `は9 館 倉 3 締 北区紺屋 ち17日

 \otimes (金)′ ま時 (入札 切 クロ 毎 9 n やで、11 ル町 市半 (財)毎日新聞西部社会事業団で は、チャリティー即売展と並行し て、今年も12月1日~28日、歳

「愛の義援金」は、クリスマス や正月を家族と過ごせない養護施 設の子どもたちや路上で生活する 人々、施設で暮らすお年寄り、交 通事故遺児家庭の子どもたちに、

末助け合い「愛の義援金」を募り

広く協力を呼び掛けることにして

いる。

少しでも温かく、少しでも楽しく 過ごせるように、と願い募る。更 に福岡、山口両県共同募金会を通

ッな準

もと少方スれ

が作で熱ッけ

`事

ピ暇稿せ会値

進準ど掲打成値品りは半わや作

急む原わ示やる装へどすなうし

チく備紙との方すし作か額絵い

`な面の作で作た品

`場札一出付書ほは`

るす応・も

力

歳末助け合い「愛の義援金」 期間は12月1日~28日

じて、障害者福祉施設・団体や児 童福祉施設・団体、高齢者福祉施 設・団体などへも生活支援金や活 動資金などとして助成金を出す。

また「愛の義援金」と同時に日 常的に募集している海外救援金や パキスタン地震救援金、小児がん 征圧募金などの指定募金も、通常 通り募る。

これらの募金は、郵便振替01 770-2-40213·毎日新 聞西部社会事業団か現金書留郵便 で送金する。所定の振込用紙もあ る。問い合わせは西部社会事業団 093 - 551 - 6675

:: 書な ど続

。ににを備紙

では各福芸た始次に

る品の・地がたとる

に産・成し

作県岡産ちめ々入

集陶佐を集ほ作と

め芸賀形中か品各

毎日社会福祉顕彰を受賞した(右から)寄村仁子さん、山田富也さん の代理、長女・綾佳さん、荘保共子さん 前(65)号のトップ記事としてお知らせした2005年

「誰もが人生の主人公に」

「歩みの会」寄村代表が抱負

度の第35回「毎日社会福祉顕彰」(毎日新聞社会事業 団主催・厚労省、全国社会福祉協議会後援)の贈呈式が 9月16日、東京都千代田区の毎日新聞東京本社で開か れた。式には受賞したカトリック大阪大司教区こども の里・子どもの家館長、荘保共子さん(58)=大阪市西成 区▽社会福祉法人・ありのまま舎常務理事、山田富也 さん(53)=仙台市太白区▽歩みの会(寄村仁子代表)=大

ろるす向でに

しをが

病む

をも人か、連被

探の々うこな災

。れる地

分県宇佐市、の2個人1団体の関係者をはじめ、審査 員や厚労省関係者、毎日新聞社幹部ら約50人が出席。 受賞者に顕彰賞牌と副賞各100万円が贈られた。

最初に毎日新聞社会事業団理事長の北村正任・毎日新 聞社社長が「社会福祉事業は共感の輪を広げていくこ とが大切で、社会福祉顕彰事業もこの精神で進めてい ます。その意味で、皆さんの受賞は心から敬服すべき もので、社会福祉向上に努力している他の多くの人た ちの励みになるのはもちろん、福祉活動への啓蒙の-助にもつながります」と受賞の意義を強調して祝福し た。続いて厚労省社会援護局の石塚栄・総務課長が「社 会援護は国だけでは出来ない。受賞者の皆さんのよう な活動が支えになっている。政府も法人制度の充実や 民間社会福祉活動の制度整備などを進めたい」と祝辞 を述べた。このあと、北村理事長が受賞者らに顕彰額 などを贈呈後、受賞した3人(山田さんは長女・綾佳さ んが出席)がスピーチした。荘保さんは「子どもたちに 生きることを教わり、私の生き方を変えてくれた。受 賞は子どもたちへの賞です」▽人工呼吸器が外せず、 寝たきりの山田さんは病床からビデオテープであいさ 「多くの支えてくれた人々のお力添えのお陰。今 後も一日一日を大切に生きてゆきたい」▽歩みの会代 表の寄村さんは「誰もが自分の人生の主人公として生 きられるよう、今後も支え合いながら頑張りたい」と 述べ、それぞれ受賞に応えた。最後に、審査委員を代 表して右田紀久恵・大阪府立大学名誉教授が審査講評 し、推薦応募29件の中から最終的に3件に絞り込ん だ経緯や評価点などを詳しく説明して閉会した。

怖言順父

そさ葉番

つのはだと

忘れまい、

'探家3か標は `てか・ を 0 ら高ヒ 書 上 者 ラ 12 き 津 い あ 超 府 震 え 万 府 パ 在 り 発 タ む 、 失 0 厳 の マ 。 と 15 大 の 被 れ と 可 8 城 と 千 死 ス 情 10 し オ 、 が抜中よら雷 ケしを0ら高ヒ 2. 生ンも、続 も使い火 迫る大災に対して、地震(死 地わも事 `人いいヤ 丰 気と食を冬地山 震れの・ のこべ超に域地 のるの親

地 い地群がし昔震

か援がり害ない後ぶて建何際頻 だがの害はとが金 も時るもら揺物度 発かのし者け競災ヤの者ト事いはが 感し汗れがか震すつ救 `がれ争者は鈍 ヘラ務と思 ま呼はうう気覚ばもるガ体度るて援ずび潰すだにがらの、欠験1官、増 - 出ばだを厳さの沖総いう 、 夕験 4 宮 救しを対大長うよ際 害に者発風の び違すだにがらの `増刻る 元気の頭掛うるがなあくだそガしく崎日強もだ更支うい指応地は `つっ体 °のタた3に向を早ろに援の冬摘に震 る被だ紙たたが治怖音 。の勤灘訴いう大をはを 比の昨連進の '揺まさを鉄揺務地え国」量強時迎 る。ど者たづはそれつはた筋れし震 に自地 た際 との化間えヒて波のアで援 のと待寒 募こ救多然震 く被んてたあてのをたが 。社警犠しと

しはらはく地の災 と人万れ万間 あた金 思とずに我いと復甚て震後か今いで円た円足ト援今つ4 ▽122越災業 でででは、1210年では、1210年ででは、1210年ででは、1210年には、1210年には、1210 `關々 て旧大数の遺ら年で5を うが 負お をな工震し気担願 で分揺症10は 、だれは年阪額 も復 切心て をい も3る当浄既日月キ だをい被 な興救がは残 。神 金託え験 おす 3 3 年 4 `一る未・ `持る災 万 。た財にま12ス はさばし阪ギ者り かる 7 とちこ者 長の・被瞬とだ淡 `中りが76で日タ 万 3 年 5 つ続とた く道救るかいに路 。2に平寄件のにン 新た当か・は援た すも , 3 `う地大 `20ス地 件潟地社ら淡衰金い くけをち の援被 万は均せ る と月万沖 づる忘が 険りか害長 。震震 円個1ら83日夕震 2 県震会だ路えへこ